令和元年度事業目標に対する主な取り組みと実績

一　事業部門の取り組み

1．特別養護老人ホームしろみの取り組み

(1)入居者の暮らしの継続のために、24時間シートを職員全員が作成できるようにします。

・ユニットミーティングで入居者個々の詳細な情報を共有した上で24時間シートの見直し検討を行い、その人の一日の暮らしに沿った24時間シートの作成に繋げることができた。

・24時間シートの見直しと併せて、ユニットリーダー実地研修施設更新に合格し3年目になったことから、新たにユニットリーダー指導者認定試験を1名受験させ合格させることができた。
また、研修生に対し、しろみのユニットリーダーが中心となりユニットケアの根拠・あり方などの実地指導を行い、ユニットリーダー自身の指導力向上を併せて図ることができた。

(2)介護機器を活用することで、入居者や職員にとって安全で負担の少ないケアの提供を行います。

・各種介護デモ機器を貸与してもらい、入居者の苦痛軽減と職員の安全確保のために活用の場面・使い方の勉強を行い、今後の介護機器導入の目安を図ることができた。

(3)ユニットケアの向上を図るため、主に入職3年未満の職員育成プログラム（PC・介護技術・看取り等）の確立を行います。

・ユニットリーダーに対し職員の指導方法等を適宜アドバイスし、ケアのOJT指導に当たらせた。
その結果、入職3年未満の職員は離職することなく、入居者主体のケアに取り組めるようになった。

(4)各ユニットの取り組み

【草原ユニット】

①職員全員が24時間シートの作成ができる。

・ユニット職員全員で24時間シートを定期的に見直した。これにより、入居者のケアの充実はもとより新人職員のレベルアップも併せて図ることができた。

②ユニットミーティングでケアの見直しを行い、ケアの統一を行う。

・実習生を指導するうえで必要なケアの知識をユニット職員で共有するなどし、個別ケアへの知見をさらに高めることができた。

【あかねユニット】

①暮らしの継続ができるように、毎月のユニットミーティングで話し合い24時間シートの充実を図ります。

・ユニットミーティングの進め方が結果的に的確でなかったため、全体的に見て24時間シートの更新が不十分であった。

②毎月季節に合わせて行事を行い、入居者・家族が楽しんでいただけるユニット作りをしていきます。

・上半期は、入居者の意向・好みに合わせたユニット行事を行うことができた。
下半期は、施設行事の参加を主たる活動とした。

【山なみユニット】

①24時間シートを活用し、ケアの統一を図る。

・新人職員が多かったので、24時間シートの理解に不測の時間を要し、24時間シートの活用が十分でなかった面はあったが、情報共有を密に行ったことでケアの統一や入居者の食事量の向上に繋げられた。

【こかげユニット】

①毎月24時間シートの見直しをし、その人に合ったケアを提供します。

・ユニットミーティングの進め方が効率的でなかった面があったため、入居者全員分を掘り下げて見直しするまでには至らなかったが、入居者の意向を確認するなかで家族を交えてのイベントを開催することができた。

【朝ぎりユニット】

①24時間シートの充実を図り、入居者にその人らしい生活を送っていただけるようケアします。

・入居者の日常生活の変化を注視し、必要に即して24時間シートの更新をすることができた。

②福祉用具を積極的に活用し、入居者・介護者の負担の軽減を図る。

・デモ機のリフトと施設のスライドシートを使用したが、経験不足等もあり十分に活用できなかった。

2．短期入所生活介護しろみの取り組み

(1)利用者が在宅生活を継続するために家族の介護負担を軽減と利用者の生活機能の維持に努めます。

・利用者のニーズに沿った支援、利用期間の調整を家族と密に行い、家族の介護負担を軽減することができた。
また、チームケアを向上させ多角的に支援することで、利用者の生活機能を維持することができた。

(2)在宅生活をもとに24時間シートを作成し、個別ケアの充実を図ります。

・利用者の生活に即した24時間シートを作成し、定期的に見直すことにより、利用者のニーズに応じたケアの充実を図ることができた。

(3)年間平均稼働率96%の達成に向けて取り組みます。

・居宅支援部（短期・通所しろみ・通所ほほえみ）の各事業所が連携し営業活動を行った。また、利用者が円滑に利用できるようにホームページに空床情報を掲載した。

3．デイサービスセンターしろみの取り組み

(1)利用者それぞれのニーズに合った個別ケアを行い、家族の介護負担の軽減、利用者と家族がともに安心して在宅生活の継続ができるようチームケアの向上に努めます。

・利用者、家族の情報や意向を職員間で共有し、利用者のニーズを分析して目標を設定した。目標を明確化したことでチームケアが向上した。

(2)利用者個々の思い、嗜好を尊重した活動を取り入れ、創作活動やグループ体操等を楽しむことができるよう心身機能の維持・向上に努めます。

・利用者と話し合いながら、行事、活動計画を立案・実施し、心身機能の維持・向上に努めることができた。

(3)平均利用者数21名（年間平均稼働率80%）を目標とし、利用者増に向けて取り組みます。

・個別機能訓練（機能訓練指導員）の充実と、ショートステイとの連携をアピールし、居宅支援部一体で営業活動を行い、利用者増を図った。

4．デイサービスセンターしろみ　ほほえみの取り組み

(1)利用者と家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるよう、家族や他サービス事業者と連携し、生活全般において利用者に合った個別ケアを行います。

・地域との交流会への参加や喫茶しろみの利用を通じ、地域の方々と交流を図り、社会参加への機会を設けることができた。また、家族や他事業所間で利用者の心身の状況等の情報共有を行い、利用者のニーズに沿ったケアが提供できた。

(2)利用者の生活ニーズに応じた機能訓練や趣味、レクリエーション活動を実施し、BPSDの緩和に努めます。

・BPSD（認知症の周辺症状）の要因を利用者個々に分析し、利用者に合った機能訓練やレクリエーション活動を行い、BPSDの緩和に努めた。

(3)平均利用者数8名（年間平均稼働率68%）を目標とし、利用者増に向けて取り組みます。

・介護負担軽減のためのショートステイ併用を同時に進めながら、居宅支援部各事業所が連携して営業活動を行い、稼働率達成を図った。

5．ケアプランセンターしろみ

(1)アセスメント力の向上を図り、個別性のあるケアプランの作成を行い、利用者の自立支援に努めます。

・諫早市内事業所間での事例検討会に全職員が出席し、職員ひとり一人のスキル、ケアマネジメント力を高め、利用者の自立支援を図ることができた。

(2)地域自治会、包括支援センターとの連携を密にとり、地域との共助力向上に努めます。

・地域包括ケアシステムを意識し、日常生活圏域（北諫早中学校区）での活動、諫早市主催の「語らんば」や研修会へ出席し、次年度に繋がる活動ができた。

(3)月平均利用者68名（年間稼働率73%）を目標とし、利用者増に努めます。

・包括支援センター、病院等へ積極的な営業活動を行い、目標を達成することができた。

6．グループホーム華の苑

(1)利用者の暮らしの継続のため24時間シートを作成します。

・24時間シートを導入したが、初めての経験から24時間シートへの理解度が深まらず、十分な活用ができなかった。

(2)趣味活動や家事の手伝い等取入れ、毎日を楽しく生活していただけるよう努めます。

・洗濯物たたみやテーブル拭きなどをしてもらい、暮らしの継続を図った。また、カラオケ、折り紙教室、おはぎづくりなどで趣味活動を充実させた。

(3)地域行事や外出を積極的に取り入れ、地域社会とのつながりを深めます。

・敬老会や夏祭り、保育園の運動会、花見やドライブを兼ねての食事会など地域行事への出席や外出を行い、地域社会とのつながりを深めた。

7．職種別の取り組み

(1)看護職員

・多職種と協働し利用者の日常の心身状態を把握し、早期発見、早期治療に努め、主治医と連携し短期間での入院治療とすることができた。

・看取りケアでは、年1回職員研修や新任職員研修を行った。家族・職員で看取りカンファレンスを開催し、安心したケアを提供することができた。

(2)機能訓練指導員

・施設部

多職種と協力し、入居者ひとり一人の興味・関心を把握し、サークル活動の実践に繋げることができた。

・居宅支援部
サービス利用中だけではなく、自宅でできる動作が増えるよう計画、実践した。また、利用者だけはなく家族の介護力も評価し、介護負担軽減につながるプログラム、動作指導を行うことができた。

(3)歯科衛生士

・歯科医師、歯科衛生士による職員研修を行い、歯科衛生の必要性・目的について意識を深めることができた。
・歯科医師との連携を密にし、歯周病や誤嚥性肺炎のリスクを防ぐことができた。

(4)栄養管理職員

・多職種と連携することにより、ユニットごとの特徴や利用者の嗜好、食べられる量を知ることで盛り付け量に変化をつけることができた。
・食事終了までユニットにいることで、利用者とコミュニケーションをとることができ、嗜好や体調面などにより残菜量が変化する関連性を見ることができた。

(5)運転士

・送迎前の車両点検や整備を毎日実施し、利用者の安全な送迎に努め、気持ち良く乗車できるよう送迎後の車内清掃を行うことができた。
・利用者に安心して乗車してもらえるよう、利用者の心身状態把握と情報共有に努めるとともに、利用者・家族に対して笑顔で挨拶を行うことができた。

(6)環境整備職員

・食器洗浄などの業務を介護職員から環境整備職員に移行するなどし、介護職員による利用者見守りの充実を図ることができた。
・四季を通して色とりどりの花を庭園へ植樹し、利用者や地域の方々に季節感を味わっていただくことができた。

(7)事務職員

・ワンストップサービスを意識し他部署の状況把握や部署内の連携を図ることで、家族や関係事業所とのスムーズな対応を図ることができた。
・部署内の情報共有や問題点改善に取り組み、業務のフォロー体制を強化することができた。

8. 家族懇談会の実施

(1)施設部(特養)

・6月に施設における自然災害(豪雨)発生時について考える企画を基に、特養入居者、北中区域住民(語らん場)、消防署、地元消防、包括、中学区で施設でできること等意見交換を行い、親睦を深めることができた。

(2)居宅支援部(短期・通所)

・家族教育及び家族支援の提供の場である認知症相談会や認知症家族教室(7月、10月に開催)をあきやま病院と協同で開催し、医療と福祉の連携を深めることができた。また、認知症のケアに携わる関係機関を対象にした研修会にも参加し、知識の向上と他事業所との情報交換に努めた。

9. 職員教育

(1)新任職員については、採用時に法人理念・施設の方針等について7日間の研修を行った。さらに、3月と11月には、業務遂行上必要となる総括的な研修を行った。
さらには、採用後6か月経過した新任職員にフォローアップ研修を11月(10名)に行い、外部講師を招いてストレスケアや研担当職員との意見交換を行い、職員定着のための取り組みを行った。
(2)外部講師を招き、役付職員、入職3年未満、入職3年以上の職員を対象に、リスクマネジメントについて勉強した。
(3)外部講師を招き、役付き職員を対象にした研修並びに、組織における意志向上と自覚強化の勉強を行った。
(4)外部講師を招き、45歳～60歳の職員を対象に、「こころの健康研修」を行った。

二 地域との親睦・交流及び地域福祉の向上

新たに地域包括支援部を立上げ、日常生活圏域(北諫早中学校区)内の子どもから高齢者、障がいの方々との交流・活動、共生社会の実現に向けて下記内容を実践した。

(1)北諫早中学区内の地域住民代表・諫早市市役所・社会福祉協議会、小中学校、消防署、利用者、ご家族、あきやま病院等と自然災害発生時の対応について勉強会を行った。
(2)地域交流祭として、北諫早中学校区の自治会の協力を得て、芸能披露をしていただき、利用者、ご家族、地域住民との交流を深めることができた。
(3)地域住民に施設を開放するとともに、夏休み期間には近隣の学童保育、放課後等デイサービスの子どもたちの活動支援、利用者との交流を行った。
(4)近隣のみやまこども園、北諫早小学校、北諫早中学校、高校、大学、就労支援施設等との交流・体験実習を積極的に受入れ、指導・助言技術、共生の必要性を再認識することができた。

三　介護報酬の動向

１．特別養護老人ホームしろみ

⑴介護報酬は前年度の約25,143万円から約25,465万円へ、約322万円増加した。また、稼働率は前年度の99.8%から98.6%へ減少した。

⑵長期入院へと繋がらないよう入院先の病院や家族との連携強化に努め、短期間の入院で施設への再受入を行うことができた。

⑶自立生活が困難な高齢者を積極的に受け入れたことにより、平均介護度は前年度の4.1から4.2へと高くなった。

２．短期入所生活介護しろみ

⑴介護報酬は前年度の約8,675万円から約9,254万円へ、約579万円増加した。また、稼働率は前年度の86.7%から90.8%へ増加した。

⑵目標稼働率を設定し、積極的に営業活動や情報提供を行ったが、目標達成に至らなかった。

３．デイサービスセンターしろみ

⑴介護報酬は前年度の約5,267万円から約5,822万円へ、約555万円増加した。また、稼働率は前年度の77.0%から82.8%へ増加した。

⑵機能訓練指導員の専門的な視点でアセスメントを行い、心身の状況等に応じて機能訓練を実施・評価し、日常生活を営むために必要な機能維持・回復に努めた。

４．デイサービスセンターしろみ　ほほえみ

⑴介護報酬は前年度の約1,912万円から約2,563万円へ、約651万円増加した。また、稼働率は前年度の41.2%から56.9%へ増加した。

⑵利用者が重度化に伴い入居サービスへ移行したことで利用者数が減し少、それ以上に新規利用者を獲得できず、目標達成に至らなかった。

５．ケアプランセンターしろみ

⑴介護報酬は前年度の約1,218万円から約1,422万円へ、約204万円増加した。また、稼働率は前年度の72.9%から82.6%へ増加した。

⑵地域包括支援センター・多事業者との連携により、月平均利用者80名・目標稼働率80%を達成できた。

６．グループホーム華の苑

⑴介護報酬は約3,911万円、稼働率は99.1%であった。